

2005

6

Vol.1

主な記事

特集：こんにちは日置市です	2
まちの話題	8
市民の広場	18

HIOKI-City <http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>

とびきり

HIOKI JOURNAL JUN.2005





日置市元年。 新しいまち、新たな歴史

平成十七年五月一日、東市来、伊集院、日吉、吹上の四町が合併して新市「日置市」が誕生しました。それぞれの特色を持った町がひとつになり、新しいかたちをつくりあげていきます。

雨の中でのスタート 県内15番目の新市誕生

五月一日は日曜日のため、一般業務は休みでしたが、市役所本庁と東市来、日吉、吹上の各支所で開庁式がありました。

当日は朝からあいにくの雨、本庁では庁舎前の広場で予定してい

た式典を急ぎよ、中央公民館ホールに変更して開催しました。

県や旧町の四役・議員等の招待者や一般市民、職員を前に、市長職務執行者の下茂旧東市来町長が「新たなまちづくり」に身が引き締まる思い。一体となって新しい歴史、ふるさとづくりを進めたい」とあいさつ。その後、場所を本庁



▲ 東市来支所



▲ 日吉支所



▲ 吹上支所

旧四町の資源を生かし 市全体の一体的発展を

日置市長 宮路 高光

平成の大合併と称される歴史的な転換期に旧四町の将来を託して日置市が誕生しました。その最初の市長選挙におきまして、市民の皆さま方をはじめ各方面からのご支援をいただき市政を担わせていただくことになりましたが、改めて職責の重大さを認識するとともに、職員と一丸となり、自ら汗を流してこの期待に沿うようまい進していく所存でございます。

合併に至るまで、新市の円滑なスタートが図られるよう調整を重ねてまいりましたが、本庁と支所間の連携、さらには旧四町の融和を図っていくためにどのような施策を行えばよいのか、今後も検討を重ねてまいります。

二十一世紀に入り、少子高齢化による社会保障のあり方、また情報化や国際化等、社会情勢は日々変化し、それに伴って住民ニーズも一段と多様化してきています。国におきましては、将来に向けた国政全般に関する問題を解決する方策を模索して構造

改革が進められています。一方で、地方自治体におきましても、地方交付税や補助金の見直しをはじめとした三位一体改革が行政運営に影響を及ぼしてまいりますので、これまで以上に行政運営の効率化や財政基盤の強化に努めながら、県都鹿児島市に隣接する地理的優位性や歴史的、文化的遺産と豊かな自然環境などを最大限に生かした「新生日置市」の建設につなげてまいりたいと考えております。

私が市長選挙を通して公約いたしました政策課題につきましては、総合計画に盛り込む中で、費用、財源、実施時期を可能な限り明記してまいります。まちづくり計画との整合を図り、地域審議会等を通じて検討をいただき、できるだけ早い時期に市民の皆様にお示ししたいと考えております。

先人の方々がその英知と情熱を傾けて築き上げてこられた四町の歴史と伝統を大切にしなが、地域の自然や文化などを活用して、市全体が一体的に発展することを目指して、誠心誠意、全力を傾注し「合併してよかった、住んでよかった」と言われるような新しいふるさとづくりに取り組んでまいりますので、市民の皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。



初登庁で迎えられる宮路市長

指して、誠心誠意、全力を傾注し「合併してよかった、住んでよかった」と言われるような新しいふるさとづくりに取り組んでまいりますので、市民の皆さまの一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

合併までの歩み

平成15年

- 1月21日 日置合併協議会設立(6町)
- 6月～7月 新市名称募集(2,134件/819種類)
- 9月 市来町が脱退
- 10月15日 第10回日置合併協議会(5町)
- 11月～12月 5町で新市まちづくり関係住民説明会(53会場、2,050人参加)
- 12月17日 新市の名称を「日置市」と決定

平成16年

- 6月 5町で事務事業調整関係住民説明会(71会場、2,442人参加)
- 9月2日 日置合併協議会休止決定
- 10月13日 日置中央合併協議会設立(4町)
- 12月7日 合併協定書調印式

平成17年

- 1月～2月 市章募集(859点)
- 3月8日 鹿児島県議会が廃置分合関係議案を可決
- 3月10日 市章が決定
- 3月11日 鹿児島県知事が廃置分合(合併)を決定
- 3月30日 廃置分合総務大臣告示
- 5月1日 「日置市」が誕生

玄関前に移し、旧四町の町長・議長らによるテープカットとくす玉割り、伊集院のジュニアリーダークラブ「チェスト」の皆さんによる「日置市」の銘板の除幕を行いました。新市の誕生を祝いました。

6町での合併協議から 2年3か月余り

鹿児島市と合併した松元町・郡山町を除く郡内六町で合併協議会を設立したのは平成十五年一月。その後、同年十月に市来町が脱退、十六年九月には五町の枠組みが破たんし、新たに四町での再スタートです。

トとなりました。昭和三十年から三十一年にかけて誕生したそれぞれの四町は、約五十年後に「平成の大合併」で「日置市」としてひとつになりました。鹿児島市に隣接し、県都と数十分で結ぶ地理的な好条件。吹上浜に代表される豊かな自然環境。歴史と文化遺産、郷土愛に育まれた旧四町。他の地域にはない歴史や景観、特色を生かしながら、多くの市民から「合併してよかった」「日置市に住んでよかった」と思われるように、新たなまちづくりのスタートです。

まちづくりは話し合いから人材育成に力を

まちづくりはハードからソフトの時代。自分の地域はだれが担っていくのか。足元を見つめ直し、将来像を描き、地域づくりを進めていくことが必要です。そのためには地域のリーダーが引つ張り、住民総参加の話し合い活動が不可欠。新市のまちづくり計画実現のためには、行政主導でなく、地域住民がやる気を出して動かなければ。地域のリーダー育成に積極的に取り組み、自治会長たちと行政が意見交換、研修する場も定期的に開催してほしいですね。



濱崎 満洋さん
(65歳)
東市来地域伊作田

H12年から鹿児島日置地域むらづくり連絡会村づくり指導員
平成14年から平迫比良自治会長
平成16年から東市来町自治会長連絡協議会長

女性の活躍できる場の開拓を積極的に

立地的な好条件、海あり山ありの豊かな自然環境、素晴らしい新市の誕生ですが、それには人口が少ないかなと感じています。新市には男女共同参画を推進して女性の活躍できる場を積極的に提供してほしいです。生活に密着する福祉サービス、特に高齢者サービスもさらに充実させて。高校の学区制度の見直し、緩和も取り組んでほしい大きなテーマだと思っています。市民の声をできるだけ反映させて四地域が一体となって発展することを期待しています。



諏訪免 順子さん
日吉地域日置

平成7年から
日吉町地域婦人会連絡協議会長
同各種女性団体連絡協議会長
合併協議会委員も務めた

小学校は20校に

日置市全体で公立小学校が二十校、公立中学校が七校、私立中学校が一校、高校が公立立あわせて四校あります。小学校の児童数は二千九百八十八人、公立の中学校の生徒数が千六百九十七人になります。

市内一番のマンモス校は、伊集院小学校で二十三学級児童数六百六十七人、一方、小規模校は日吉地域の扇尾小学校で三学級二十人。それぞれの学校の特色を生かしながら、相互交流が楽しみです。

市の指定文化財は81を数える

古くから南薩文化の中心だったといわれるこの地域には、伝統芸能や文化遺産など、数多くの文化



日吉支所庁舎

財があります。

それぞれ旧四町の指定文化財は新市に引き継がれることになりました。

日置市全体をみると、東市来地域の国の指定文化財「天然記念物 ヤッコソウ発生地」をはじめ、県の指定文化財が十一、日置市の指定文化財が八十一を数えます。

これは県内全域をみても上位に位置します。

一年を通して、伝統芸能の見学やのんびりと史跡名所めぐりも楽しそうです。

広報でも順を追って紹介していきたいと思えます。

国際交流・地域間交流は三力国と六地域に

日置市の旧四町は、歴史的なかわりや民間の草の根交流等から発展して、さまざまな国や地域と交流してきました。

東市来地域では、北海道開拓にかかる縁がきっかけとなり、昭和58年に北海道弟子屈町と姉妹町盟約を結び、また、海外では韓国全羅北道南原市や香港との交流があります。

伊集院地域では、関ヶ原合戦という歴史的なかわりから昭和38年に岐阜県関ヶ原町と同59年



吹上支所庁舎

には滋賀県多賀町と兄弟都市の盟約を結んでいるほか、同43年に加治木町と教育姉妹町の盟約を結んでいます。

日吉地域では、歴史的なかわりから昭和43年に根占町と姉妹町盟約を結んでいます。

吹上地域では関ヶ原合戦が取り持つ縁で、平成12年に岐阜県上石津町と友好のまち宣言をしたほか、宮崎県佐土原町とも交流があります。また海外では、からも交流から発展して、マレーシアジェレブ市との交流が続いています。

こうした交流を支え促進するために、東市来では韓国から、吹上ではマレーシアから国際交流員を招いています。

これら国際交流、地域間交流活動は、新市でもそのまま引き継がれ、市全体にさらに推進していきます。

市長に宮路氏、市議30人も決定

日置市発足に伴う市長及び市議会議員選挙は、五月二十一日に告示され、同二十九日に投票が行われました。

即日開票の結果、市長選では日置中央合併協議会会長で

旧伊集院町長であった宮路高光氏(54)が当選しました。

また、市議選でも三十人の新しい顔ぶれが決まりました。

市長選投票率は78.31%

市長選には宮路高光氏と元鹿兒島県議会議員の上原一治氏(57)が立候補しました。

また、市議選は今回に限り、旧



当選証書付与式

四町ごとに四つの選挙区が設けられ、東市来選挙区が定数八に対し十二人、伊集院選挙区が定数十三に対し十九人、日吉選挙区が定数三に対し九人、吹上選挙区が定数六に対し十人がそれぞれ立候補しました。

スタートしたばかりの日置市の市政を担う身近な選挙とあって、有権者も関心が高く、投票率は市長選で78.31%でした。

開票結果は次のとおりです。

市長選挙 (得票順 敬称略)

投票総数 三二、八六一
有効投票 三二、二五八
無効投票 六〇三

当一九〇七七 宮路 高光 無新
当一三、一八一 上原 一治 無新

市議選挙 (得票順 敬称略)

投票総数 八、五六〇
有効投票 八、五〇四
無効投票 五六

東市来選挙区(定数八)

当八二二 坂口 洋之 社新
当七九九 花木 千鶴 無新
当七六七 下御領昭博 無新

伊集院選挙区(定数十三)

投票総数 一三、五四五
有効投票 一三、四一九
無効投票 一二六

当一、一九八 佐藤 彰矩 無新
当一、〇六二 出水賢太郎 無新
当八三五 坂口ルリ子 無新
当八三一 並松 安文 無新
当八二二 坂口 洋之 社新
当七九九 花木 千鶴 無新
当七六七 下御領昭博 無新

日吉選挙区(定数三)

投票総数 四、二〇〇
有効投票 四、一六七
無効投票 三三

当六三五 鳩野 哲盛 無新
当五九六 田畑 純二 無新
当五六八 成田 浩 無新
当五三三 松村 平 無新
当五一七 下笠 政文 無新

吹上選挙区(定数六)

投票総数 六、五五四
有効投票 六、四七六
無効投票 七八

当八四〇 大園 貴文 無新
当七八六 上園 哲生 無新
当七三二 漆島 政人 無新
当六八七 中島 昭 無新
当六三六 長野瑳や子 無新
当六一六 地頭所貞視 無新
当六〇二 榑学 無新
当五八六 恒吉 英治 無新
当五一七 進藤 正廣 無新
当四七四 有元憲太郎 無新

市長選挙得票数(選挙区別)

	宮路	上原	総数
東市来	2,745	5,662	8,407
伊集院	10,212	3,121	13,333
日吉	2,185	1,916	4,101
吹上	3,932	2,482	6,414
計	19,074	13,181	32,255

市長選挙投票率

	男	女	計
東市来	77.80	79.80	78.91
伊集院	72.39	75.63	74.14
日吉	85.75	87.42	86.67
吹上	81.51	82.29	81.95
計	77.01	79.37	78.31

市議会の構成が決定

議長に 宇田 榮 氏
副議長に 地頭所貞視 氏



宇田 榮 議長

東市来町議5期 (元議長)



地頭所貞視 副議長

吹上町議4期 (元議長)

選挙後初めて開催された六月九日の臨時議会において、議会の構成が決まりました。
議長に宇田榮氏（58歳） 副議長に地頭所貞視氏（61歳）
副議長に地頭所貞視氏（61歳） 吹上町湯之浦を選出し、常任委員会の構成も次のように決まりました。（敬称略）

■ 総務企画常任委員会

委員長 畠中 實弘 副委員長 田丸 武人
委員 鳩野 哲盛 東 孝志 池満 渉
漆島 政人 花木 千鶴 上園 哲生

■ 環境福祉常任委員会

委員長 長野 瑛や子 副委員長 鶴園 秋男
委員 成田 浩 佐藤 彰矩 谷口 正行
梶 康博 西園 典子

■ 産業建設常任委員会

委員長 松尾 公裕 副委員長 田代 吉勝
委員 地頭所 貞視 重水 富夫 大園 貴文
並松 安文 門松 慶一 下御領 昭博

■ 教育文化常任委員会

委員長 田畑 純二 副委員長 中島 昭
委員 西峯 尚平 坂口 ルリ子 坂口 洋之
出水 賢太郎

6/9の臨時議会でスタートした日置市議会



鈴掛け馬に誘われ 人も踊る

湯之元馬頭観音馬踊り



四月十日、恒例の湯之元馬頭観音馬踊りが、湯之元温泉街を中心に行われ、町内外からたくさんの人出がありました。

坂之上集落の馬頭観音碑の前で五穀豊穡を祈願した後、色鮮やかな花飾りをした二頭の鈴掛け馬を先頭に、湯之元クラブ（内田博昭会長）の会員や「ミスこけけ」の馬場口恵美さん、役所の若手職員らによる踊り連が、湯之元温泉街を練り歩きました。

午後からは、湯之元温泉豊年俵踊保存会（古川正広会長）による踊りなども披露。旧国道には木市や露店が立ち並び、終日、家族連れなどでぎわいました。

行政相談の功績で九州局長表彰

三原辰子委員

東市来地域の行政相談委員の三原辰子さんが、平成十七年度九州管区行政評価局長表彰を受け、五月十二日、鹿児島市にある総務省鹿児島行政評価事務所にて表彰状と記念品の伝達式がありました。

三原さんは、平成九年から行政相談委員を務め、住民の良き相談窓口として、広く行政に対する苦情や意見等を聞き、公平で中立の立場から問題解決のために尽力されてきました。今回、その功績が認められたものです。

「突然のことです。これを機に、さらに市民の皆様のために頑張ります」と話していました。



豊作と悪疫退散を祈願 ユーモラスな庭狂言も

荻・伊勢神社 棒踊り



五月三日、東市来地域養母地区にある荻・伊勢神社で、二百年以上も前から伝承されている荻・伊勢神社棒踊りが同神社境内で披露されました。

踊り手連は、同地区の荻・田代・梅木・北山・鉾之原・立和名の自治会と大平自治会の小学生から大人まで総勢二百五十人。歌い手の歌に合わせて、六尺・三

尺棒、鎌を交えた勇壮な踊りを奉納しました。

また、境内では庭狂言「あとやま」も披露。荻集落の青壮年らが演じた狂言は、現代風にアレンジされた水戸黄門や「マツケンサンバ」も登場し、ユーモアあふれる熱演に境内を取り囲んだ観客から大喝さい、笑いの渦に包まれていました。



▲ 人気の魚のつかみ取り大会



▲ 大勢の人出でにぎわいました

ふるさと港まつり

大漁旗の漁船 鮮やか ゴールデンウィークの江口浜に一万人

五月三日、初夏のまぶしい日差しの中、第十三回ふるさと港まつりが東市来地域の江口漁港で開催され、市内外から大勢の家族連れでにぎわいました。

オープニングでは、「漁船乗船体験」の漁船五隻が色鮮やかな大漁旗を掲げ、勇壮に入港。たくさん参加者がクルージングを体験しました。恒例の魚のつかみ取りでは、最初怖がっていた子どもたちも、しばらくすると無我夢中に。イケスに放された生きのいいマダイやヒラメなど三百匹を必死に追いかけて、大物を捕まえるたびに観客から歓声が上がっていました。また、江口浜で水揚げされた新

鮮な魚を安価で販売するコーナーやその場で炭火焼きにして食べられるグルメコーナーなどが人気を集め、多くの買い物客などであふれていました。

ステージでは、伊作田小学校児童による演奏、カラオケ大会、歌謡ショーなども披露。まつりを締めくくるお楽しみ抽選会では、秋太郎（パシヨウカジキ）やタイなど海産物の当選者がよばれるたびに、客席から大きな歓声とため息があふれ、終日、たくさんの人出でにぎわっていました。

多くのボランティアの支えにより運営される祭りは、大成功に終わりました。



県中学春季 野球大会

東市来中野球部 念願の初優勝

第三十五回県中学春季選抜野球大会が四月二十三日から二十五日の三日間、鹿児島市民球場と県立鴨池球場で開催されました。

日置地区大会で優勝した東市来中は、一回戦から熱戦を繰り広げ、決勝戦では、鹿屋東中を五対四の大接戦で制し念願の初優勝。県下二百七十四校の頂点に立ちました。

同校野球部監督の前之園克志先生は、「得意の機動力を使い、少ないチャンスを確実に生かしたことが勝因です」と話していました。

甘い授業に夢中

土橋小学校



五月二十日、土橋小学校（山口諭校長・児童60人）で、イチゴ狩りがありました。これはイチゴの産地にある同小の伝統的な行事で、産地を肌で感じてもらおうと、毎年、イチゴ農家の保護者の協力で行われているもの。

全校児童は三か所の農家に分かれて、ハウスの中へ。伊集院地域中川の宇都さんの農園では、六年の尾堂真成君が「毎年、楽しみ。おいしいイチゴがたくさん摘めた」と新鮮なイチゴを口に満足そうな笑顔。中には、慣れた手つきで摘みながら「家もイチゴ農家だけど、なかなか摘ましてもらえないからこの行事が楽しみ」という児童もいました。

鉄道の安全を守り41年

春の叙勲

「特別のことをしてきたわけではありません。いい先輩に恵まれ、仕事を全うすることができました」元国鉄職員の白石巖さん（74歳・伊集院地域猪鹿倉）は、41年間という鉄道マンとしての功労が認められ、二〇〇五春の叙勲で瑞宝単光章を受章しました。

白石さんの主な仕事は信号機や制御装置など、鉄道の安全に欠かせない設備等の保守管理。「台風時には家は妻に任せ、私は職場に缶詰め。家族には苦労をかけた」という傍らで「当たり前だと思っ



五月八日、伊集院地域飯牟礼地区の熊野神社で、伝統の棒踊りが奉納されました。この踊りは、地区内の上・下・大下の三集落から青壮年や中高生が参加し、五穀豊穡を祈願して毎年、行われているもの。午後になり、神社に続々と人が集まりざわつき始めます。三集落からそれぞれ違う衣装の踊り手が境内に登場するころには辺りはにぎやかさを増します。飯牟礼中は鎌を使った踊り、

勇壮な舞を披露
飯牟礼と上土橋伝統の
棒踊り

写真 上 上土橋棒踊り
右 飯牟礼棒踊り



飯牟礼上は虚無僧踊りと各集落に伝わるそれぞれの踊りがあり、踊り手は伝統を受け継ぎ、勇壮な舞を披露しました。また、上土橋の棒踊りも四月二十四日に、地区内の勝護院に奉納されました。小学四年生から中学三年生までの十五人が、勇ましい踊りを奉納。同時に行われた運動会でも披露し、大勢の観客から拍手を浴びていました。

伊集院町
感謝祭

半世紀の歴史に感謝
町民歌を高らかに



合併前の四月二十四日、伊集院町感謝祭が旧伊集院町役場前広場で開催され、昭和三十一年以来半世紀にわたって存続した「伊集院町」を名残惜しむかのように、町内外から多くの人が訪れました。

感謝祭では、町内の小・中・高校の児童生徒による合唱や器楽演奏、古くから町に伝わる伝統芸能の中から、大田太鼓踊りや徳重大バラ太鼓・伊集院太鼓などが披露され、祭りを盛り上げました。

また、三遊亭歌之介さんの独

演会や伊集院町出身のNHKアナウンサー有働由美子さんの講演などもあり、感謝祭に花を添えました。

会場には、町内で生産された特産品等を販売するコーナーや「伊集院鍋」、「振る舞い焼酎」が無料で配布されるコーナーなどもあり、大勢の人で終日、にぎわいました。

フィナーレには、今後歌う機会がなくなるであろう「伊集院町民歌」を、参加者が声高らかに歌い「伊集院町」に感謝していました。

消防団員として51年

春の叙勲



春の叙勲で伊集院地域徳重の岩崎嘉徳さん（75歳）が瑞宝単光章を受章しました。

岩崎さんは昭和27年に消防団に入団、平成15年に退団するまで、分団長や副団長等の要職を歴任しました。本職は家具職人。「手がはずせない作業中とか深夜に、出勤がある時は大変でしたが、いつでも家族が支えてくれました。お風呂を沸かして待っていてくれた妻には感謝しています」三年前に病気で車椅子生活に。「迷惑をかけるわけにはいかない」とやむなく退団。「団員の待遇改善や後継者育成などまだやり残したことがある」と消防団にかける情熱は衰えていません。

中高生30人が伝統を受け継ぐ

伊集院地域郡の棒踊り

五月五日、伊集院地域伊集院地区の郡（こおり）で伝統の棒踊りが行われ、集落内の高校生と中学生約三十人が勇壮な踊りを披露しました。

この踊りは、五穀豊穡と家内招福を祈願して毎年行われており、昨年から中学生も踊り手として参加。かすりの着物に、はちまき姿の踊り手たちは郡にある九玉神社に集まり、棒や鎌を交えた踊りを奉納した後、夕方までに新築や初節句の家庭など、集落内の約七十カ所の家や商店を回りました。早朝からの踊りにもかかわらず、踊り手たちは勇ましく声を掛け合いながら、真剣なまなざしで、しっかりと伝統の踊りを受け継いでいました。



お田植祭り

せつとべとべ

泥はね上げ、豊作祈願



せつとべの歌
 なんの罰かよ 八幡馬場へ
 八里隔てて 跳つけもどるへ

肩を組み元気に踊る「せつとべ衆」



鎌踊り (山田集落)



笹踊り (諏訪集落)



鎌踊り (日新集落)



虚無僧踊り (八幡集落)



おどん 大王殿のお通りだ～!

境内や御神田で飛び跳ねて泥んこになる「せつとべ」田植えがしやすいように土をこね、害虫を踏みつぶす。今年の大豊作を願い、精一杯の元気で飛び跳ねる。

日吉地域伝統のお田植祭り「せつとべ」が六月五日(日)、日置八幡神社と吉利鬼丸神社で盛大に行われました。
 昨年新築され今年で二回目となる八幡神社では、八幡集落、諏訪集落、日新集落、山田集落から集落ごとの看板(団旗竿)・しべ竿を先頭に奉納踊りの踊り子とせつとべ衆と呼ばれる白装束姿の若者ら

が集まり、鳥居の前や境内で各集落に伝わる踊りを奉納しました。
神事が終わり、御神体を先頭に行列を組み、御神田へ下ります。八幡集落の子どもたちも行列のみこしを担ぎ御神田まで歩きました。
御神田では、それぞれの集落の力自慢が十メートルほどもある看板(同旗竿)やしへ竿を立てて持ち、御神田の端から端まで運びます。体勢を崩し竿が倒れそうになると、



力技を競う



踊りはいっそうにぎやかに

見物客から喚声が上がっています。竿をすべて運び終わると、いよせつべとべが始まります。せつべとべ衆は景気つけの焼酎を飲みながら、歌に合わせて肩を組み、威勢よく飛び跳ね、豊作を祈願しました。
晴天に恵まれたこともあり、地域内外から多くの見物客が訪れ、泥だらけで精一杯飛び跳ねるせつ



盛り上がるイベント会場



焼酎で景気づけ!

べとべ衆の姿に歓声を上げていました。
鹿兒島市から訪れたという知覧さんは、「新聞などではよく見ましたが、実際に見物するのは初めて。迫力があつておもしろい。同じく鹿兒島市から訪れた前野さんは、「日吉に息子夫婦が住んでいるので毎年見物に来ている。今日は山田集落に息子が出ていますので孫と一緒に見にきました」と話して



晴天に恵まれ、多くの見物客が訪れました

また、午前中から運動公園弓道場でせつべとべ射会が行われ、約五十チームが出場し腕を競っていました。午後からは同イベント広場で、「せつべとべイベント」が開催され、各集落の奉納踊りや特設の田んぼでのせつべとべなどが披露されました。日差しの照りつける中でも、会場はたくさんの人でにぎわい、盛り上がっていました。

日吉地域吉利の富ヶ原義徳さんが、人権擁護委員としての功績に対し、法務大臣から感謝状を受けました。
富ヶ原さんは平成元年に人権擁護委員に委嘱され、十七年という長い間、国民の基本的な人権が侵犯されることのないように監視するとともに、人権思想の普及高揚に尽力されてきました。
長年にわたって委員としての使命を全うしてきたことを振り返り、「いろいろと苦労もありましたが、最後まで任務を果たせたことをうれしく思っています」と話していました。



法務大臣感謝状
17年間使命を果たす
— 人権擁護委員 —

できた！新たな元気拠点

藤元直売所が完成



棚田や山菜、歴史など、地域資源を活かした地域づくりに取り組む藤元地区に、このほど新直売所が完成。五月八日、その落成式が盛大に行われました。

この直売所は、同地区で操業する西酒造（西陽一郎社長）が「地域あつての会社」と、地元活性化を図るために寄附したものだ。

「元気の出る地域づくりの新拠点にしたい」と地区公民館長の窪田繁さん。手作り施設で培ったノウハウをもとに、新鮮な産品や地域情報を発信したい考えです。

直売所は県道谷山伊作線沿いにあります。

郷土へ熱い思いを込めて

関東・関西吹上会が絵画を寄贈

「故郷との連携を図ろう」と様々な活動を展開している関東、関西両吹上会から、吹上町の歴史を閉じる記念にと絵画が寄贈されました。

関西吹上会（坂上英臣会長）からは女性を描いたやわらかいタッチの抽象画が贈られました。

四月十二日には、関東吹上会役員が来庁し、その贈呈式が行われました。今村清袈会長が「会員の心にある吹上の風景です」と紹介。新設される図書館にと、久多島を望む吹上砂丘と松が繊細に描かれた百号の絵画が贈られました。

合併しても、故郷に寄せる思いは強く、さらに連携した取り組みは続きます。



5/15 につきやかフリーマーケット



伊作小校庭には市内外から約100店が出店、値段的駆け引きやふれあいを楽しみました。

5/20 市高齢者クラブ連合会発足



吹上中央公民館で初総会が開かれ、知識と経験を新市に生かすことなどを確認しました。

春の叙勲

保育に捧げた45年

中央保育園主任保育士の魚返豊子さん（吹上地域与倉）が春の叙勲で瑞宝単光章を受章しました。同園の創立当時は、やっと児童福祉が叫ばれ始めたころ。

以来四十五年、「子どもには笑顔で」をモットーに、園児やその家族と接してきました。

「時代に合った保育をしなければいけないから大変」といいながら、今日も優しいまなざしで園児を見守っています。



5/17
~21
九州大学バド
リーグ選大会



吹上浜公園体育館で開催。31校49チームが
出場し5日間の熱戦を繰り広げました。

講座等
合同開講式

自ら学び地域に貢献

平成十七年度吹上地域公民館講座や中央高齢大学合同の開講式が五月二十一日、吹上中央公民館で開かれました。
式では、学級生を代表して川原修さん(下与倉)が「県立の教育機関が三つもある地で学習を深め、地域に貢献します」と決意を述べました。
また、食文化史研究家の永山久夫さんが「和食は、世界一の長寿食」と題し講演。今年の生涯学習が始まりました。



6月
ホテイアオイが
満開(正円池)



吹上浜公園近くにある正円池のホテイアオイが梅雨の幻想的な風景を見せました。

山あいに歓声と銀鱗ぎんりん

平鹿倉ニジマス釣り大会



廃校となった小学校のプールを活用したニジマス釣り大会が四月二十四日、平鹿倉地区で開催されました。
好天に恵まれたこの日、待ちきれない地区内外の愛好者百人以上が早くから集合。使い慣れたさおを手に、プールサイドに陣取り、立すいの余地もないほどに山あいの釣堀は沸き立ちました。
一週間餌抜きされた約二千匹のニジマスは、釣り糸を待ちかねたように食いつき、参加者は休憩する暇がありません。
交流による地域づくり。青壮年部は大きな手応えを感じています。

教えてあげるカメのこと

市職員出前講座

吹上浜に産卵に訪れるアカウミガメの生態を学ぼうと、出前講座が五月二十六日、伊作小で開かれました。
吹上支所の担当職員が同校三年生に、産卵の様子や食べ物について授業。特別講師の「かめまる君」と、その暮らしぶりを紹介しながら、自然保護の大切さを訴えました。
児童は「カメは何が進化したの」「なぜ夜に卵を産むの」などと興味津々で質問。大人になれるのは五千分の一と聞き、「ゴミを捨てないことが、ウミガメを守る」ことにつながることを学びました。



地域審議会 委員募集

新しいまちづくりに あなたの声を

日置市では、これまでの合併協議の中で決定されていた市町村の合併の特例に関する法律第5条の4第1項の規定に基づく地域審議会を、合併前の旧町ごとに設置します。

審議会では、旧町地域に関する次の事項について、市長の諮問に対して答申や意見を述べるすることができます。

- 新市建設計画の変更に関する事項
- 新市建設計画の執行状況に関する事項
- 地域振興のための基金の活用に関する事項
- 新市の基本構想の作成及び変更に関する事項
- 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

審議会委員は、地域ごとに市長が選任する学識経験者等（15人以内）、公募委員（5人以内）の20人以内で構成します。

対象者

日置市に住所を有し、かつ選挙権を有する人。

募集人員

地域ごとに5人以内

東市来地域、伊集院地域、日吉地域、吹上地域の各地域それぞれ5人以内。

任期

2年

日置市に住所を有しなくなったときは、委員としての資格を失います。

報酬

市条例で定めた額をお支払いします。

会議開催

本庁及びそれぞれの支所で平日（午前9時から午後5時の間）に開催します。（年1回以上）

応募方法

所定の応募用紙に必要事項を記入のうえ、郵送、Faxまたは本庁か各支所に直接提出してください。

応募用紙は、本庁企画課、各支所の地域振興課にあります。

応募先

〒899-2592 日置市伊集院町郡一丁目100番地
日置市役所総務企画部企画課（企画調整係） TEL 273-2111 FAX 273-3063

〒899-2292 日置市東市来町長里87-1
同 東市来支所地域振興課（自治振興係） TEL 274-2111 FAX 274-4074

〒899-3192 日置市日吉町日置377番地
同 日吉支所地域振興課（自治振興係） TEL 292-2111 FAX 292-3055

〒899-3301 日置市吹上町中原2847番地
同 吹上支所地域振興課（自治振興係） TEL 296-2111 FAX 296-3299

選考方法

応募者が多数の場合は抽選とします。

応募期間

平成17年7月8日（金）午後5時まで（必着）

郵送についても同様とします。

問い合わせ先

日置市役所総務企画部企画課（電話099-273-2111（内線264）FAX099-273-3063）





平成三年に実行委員会が発足するまでは、初代会長・故窪田廣治さん個人の献身的な取り組みによって継続されてきました。「薩摩武士の気風を受け継ぎ、後世に伝え、精神的に強い人間を育てたい」という強い意志があったと思います。

初めて踏破隊に参加したのは約25年前、「茅をかき分け、道なき道を歩く。マムシやヤマヒルに気をつけながらの峠越え。恐怖心を感じたのを覚えています」。真夏の炎天下での百二十五キロ。(現在は75キロ)

「今の時代、参加する子どもたちは感心です。踏破を達成した子は充実感いっぱい、たくましさを感じます」。

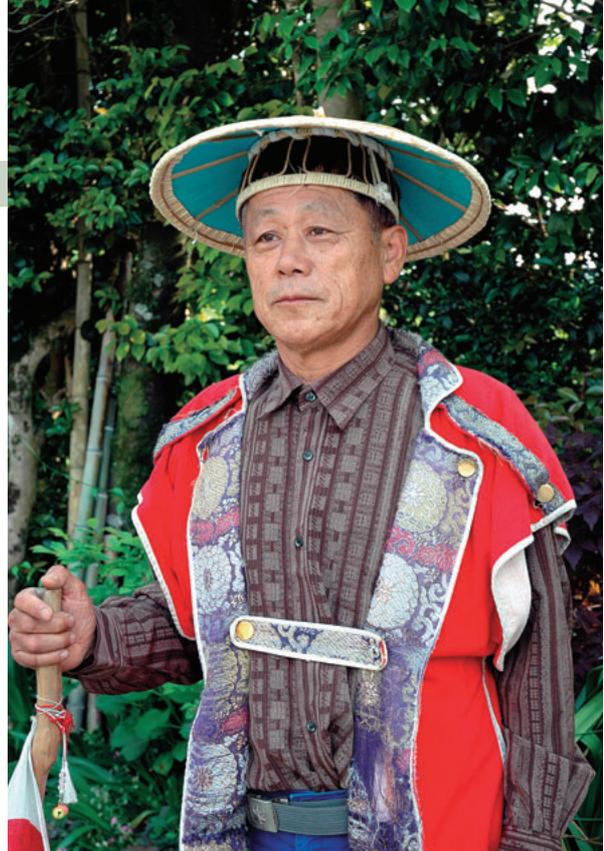
昔は校区行事も子どもたちが主体となっていてやるものが多かったが、最近は大人が手取り足取りしてやる場合も少なくなっている。

「先人の勇ましさを学び、心身を鍛え、礼儀、正義感、生きる力を身につけてほしい。今年は市内広くから参加をよびかけたい。ぜひ、挑戦してもらいたいですね」。今年の夏、46回目を数える。

妙円寺詣りのいわれとなった関ヶ原合戦での島津勢の敵中突破。その苦難をしのび、青少年に敗走路の踏破を体験させる「関ヶ原戦跡踏破隊」の取り組みは昭和35年から毎年行われています。

松尾さんはその実行委員会の第二代会長です。

薩摩武士の不撓不屈の精神を受け継ぐ



松尾 四男さん [66歳]

まつ お よつ お

伊集院地域 中川

平成12年から関ヶ原戦跡踏破隊実行委員会会長
平成10年から15年まで伊集院町子ども会育成連絡協議会会長
平成15年から日置地区子ども会育成連絡協議会会長
平成13年から土橋地区公民館長



田淵 斉さん(62歳)

東市来地域美山
(美山上前)

専門は薩摩焼の絵付です。墨は色絵と違い、白黒の表現、濃淡をだすのが難しいがやりがいがあります。水墨画を習い、美の追求、モノの見方も変わってきたような気がします。初めて出品して受賞した作品です。

水墨画「紫陽花」



私の作品展



吉永 吉志さん(80歳)

東市来地域長里
(杉之迫)

平成11年から公民館講座で学んでいます。私の生きがいのひとつです。

水墨画は、やればやるほど奥が深く難しいです。満足まではいきませんが、これまで40点ほど完成した作品のなかで自信作のひとつです。

水墨画「江口蓬萊」



「広報ひおき」では、皆さまからの情報やご意見をお待ちしております。「市民のひろば」「まちの話題」など、お気軽に総務企画部企画課まで情報をお寄せください。できるだけ、たくさんの市民の皆さま、地域の情報を掲載していきたいと思います。



ウォッチ まちの文化財 ①

日置八幡神社とお田植え祭り(日吉地域)

白装束の若者が田んぼで泥まみれになる「せつぺとべ」は有名ですが、それが日置八幡神社のお田植え祭り的一部分であることは、あまり知られていません。高さ三祀あまりの巨大な人形「大王殿(でおどん)」が練り歩き、日吉地域内各地区から九つの踊りが奉納される祭りです。

祭りが行われる日置八幡神社は、由緒ある神社です。日吉運動公園の近くに、平成16年に改築された社殿が建っています。

約780年前の記録に日置八幡神社のことが書かれており、それより古いと考えられます。天照大神、応神天皇などを祀っています。400年ほど前に、現在の日吉地域の北部一帯を治めていた日置島津家三代領主常久が、八幡神社を領内にある52社の神社の総鎮守と定めたとされています。その後、歴代の領主や村人の信仰を集めたようです。

こうした経緯から、多くの地区が踊りを奉納するようになったのでしょう。

引用参考文献 『日吉町郷土誌 上・下巻』



Access

車で本庁より約15分
日吉支所より徒歩で約8分

私の将来の夢は先生になることです。小学校一年の時、受け持っていたいた先生との出会いがきっかけです。先生は、何もわからない私たちにやさし



ゆめ & チャレンジ

『将来は体育の先生』

伊作小学校六年 樽野 莉奈さん

くわかりやすく教えてくださいました。

私は、その時に

「先生みたいな、やさしい先生になりたい。」と強く思いました。

両親は、そんな私の夢を大事に思ってくれどんな時も応援してくれます。勉強だけでなく、スポーツをするときも支えてくれるので、ありがたいです。

私は、体育が好きなので体育の先生になろうと思います。そして、夢のきっかけをつくってください先生、応援してくれる両親に、夢を実現することでありがとうと伝えたいと思います。夢に向かってがんばります。



鹿児島県日置市

市の人口(住民基本台帳)

総人口 53,415人(12)
 男 24,923人(3)
 女 28,492人(15)
 世帯数 22,221 (47)
 ()は前月比

市の面積 253.02km²

今月の表紙



夏の到来を告げる「せつべとべ」
 楽しげに田を踏みならず白装束の踊り手。踊るのが先か、焼酎が先か。踊りの輪は崩れてはまた広がり、いつまでも歓声は途切れませんでした。(6/5 日吉地域)

わが地域



館長 久木崎 親文さん

永吉地区は吹上地域の北部、日吉地域との境に位置する。十九の自治会で構成され、七百七世帯、千五百九十六人が暮らす。

地区内には、旧吹上町が地区振興プロジェクト「山神の郷公園整備事業」で設置した加工施設・体験学習施設・特産品直売施設があり、その管理運営を地区で組織した組合で取り組んでいる。

全国優良公民館として、平成十六年度文部科学大臣表彰を受ける。



山神の郷公園での炎の祭典

永吉地区公民館(吹上地域永吉) 歴史を生かし地域に活力と愛着を

地 域に伝わる歴史、先人の遺徳を大切に後世に残そうと、地区内の有志が地道に活動してきたことが、地域間交流に発展し、旧吹上町が岐阜県上石津町と「友好のまち」となることにつながりました。

同時に始まった「天昌寺祭り」の行事は、地区全体を巻き込み、地域活性化の大きな原動力となりました。

この平成12年から始まった地域の歴史を生かした取り組みは、今では永吉地区振興・地域交流の拠点「山神の郷」での祭りと連携してさらに魅力あるものとなっています。

歴 史的な意義を持つ取り組みだけに、地区民が郷土の歴史を知り、郷土への愛着をもつことにつながり、同時に誇りが生まれてきたように感じます。子どもも参加も多く、郷土愛を育む郷土教育、健全育成も担っていると思います。

ほかにも、伝統的な夏祭り「六月灯」や夜に開催される「永吉川筏くだり」など、地区民が一体となって実施する行事は数多く、子どもから高齢者までふれあいの場が生まれ、そこからまた地域づくりの話が広がっていきます。



天昌寺祭りの武者行列(後ろは地区公民館)

年 間を通してやるべきことが多く大変だという思いもありますが、地区公民館を拠点にした生涯学習活動による地域づくりへの実践、公民館専門部組織の自主的な活動、運営が大きな支えとなっています。

これからも公民館を中心とした話し合い活動を基本に、「自分たちの地域は自分たちで興そう」という気持ちで、地域の連帯意識を高め、元気のある地域をつくっていききたいです。



えーっ。まさかあるわけないだろう。七年前に精根使い果たして卒業したはずの広報マンに見事返り咲き▼やっとな稿が終わったらさて次号はどうする？締め切りを気にしながら、忙しいのか忙しくないのかはつきりしない悶々とした日々をまた過すのか▼加えて今回は広範囲。地理がわからず、取材先にたどり着くのに一苦労。お前は何か？？人もよく知らない。悩みはつきない▼というわけで「広報ひおき」第1号がやっとな発行です。(前担当の最終回にも書いたことですが…)広報紙は好むと好まざると必ず手元に届きます。何といつても読んでもらえるものであることが一番です。鍋敷だけに重宝されないように、発行を心待ちにしていただけのような編集に努めたいと思います。広報紙に対してどしどしご意見をお寄せいただくと助かります▼一年間よろしくお願ひします。(ん、一年で終わり?)

1 平成17年6月号

発行/日置市役所
 総務企画部企画課
 〒899 2592
 日置市伊集院町第一丁目100番地
 TEL 099(273)2111
 FAX 099(273)3063
<http://www.city.hioki.kagoshima.jp/>